

オホ

廻組に入り、異風城許となり、累進して馬廻頭に進み、天和二年歿した。

オホハシトキナリ 大橋時成 通稱外記。常成の嫡男。前田利長に仕へて、二百石を受け、子小將組に列した。父の歿後千五百石を襲ぎ、大坂前役に先手物頭となつて従軍し、十二月四日箕山で鐵炮に中つて戦死し、弟長成家を繼いだ。

オホハシナガナリ 大橋長成 通稱又兵衛。常成の次男。慶長十二年前田利長に仕へ、子小將組に入り、祿百五十石を賜はつた。父歿後其の祿百五十石を加へ、大坂前役に利常に従つて出陣功を立て、兄時成の歿後又其の祿七百石を増して馬廻頭となつた。次いで正保二年弟市右衛門の歿後更にその祿二千石を増し、計三千石となり、人持組に陞つた。寛文二年四月歿。大坂夏陣に背屋口で敵首一を獲た大橋小作人は、この又兵衛の初名であらうと言はれる。

オホハシナガヨシ 大橋長吉 長成の長子。叔父市右衛門の後を繼いで、祿千五百石を領し、また市右衛門と稱した。慶安元年歿。

オホハシナホナリ 大橋直成 通稱長兵衛。慶安元年父市右衛門遺知の内六百石を受け、寛文六年大小將より次第に昇進し、寶永五年二百石を加へ、享保四年正月十九日七十三歳を以て歿した。

オホハシナリユキ 大橋成之 通稱作之進。馬廻組淺香治部の第三子であるが、文政二年七月大橋作左衛門則成の後を襲ぎ、祿八百石を受け、四年高岡町奉行に任じ、後諸職を経て天保九年組外番頭に進んだ。成之初め西村

研究して火術及び舍密に通じ、嘉永六年藩の西洋流火術方を掌り、翌年之を壯船館と改めた。安政六年十二月歿する時享年六十七。

オホハシヒロカツ 大橋弘雄 通稱左平。三郎左衛門。初諱重武・成長。元祿七年父六丞の遺知三百五十石を襲ぎ、大小將・會所奉行に任じ、享保九年二條吉忠夫人附物頭並となつて百石を加へ、十三年御免、十五年御先簡頭となり、元文元年正月廿九日五十二歳を以て歿した。

オホバジユンゲン 大庭隴元 諱は敬忠。醫を業として藩より十人扶持を受け、安永二年八月三十二歳を以て歿。順元詩才あつて巴陵と號した。

オホハシリユウ 大橋流 加賀藩の右筆櫻井爲兵衛正可は、幕府の右筆大橋龍慶法印の女を妻とし、二代平十郎正世も大橋長左衛門の女を娶つたので、書風も亦大橋氏に學び、流派を大橋流と稱したが、五代爲兵衛正享が土師清十郎の女と婚するに及んで、土師流と稱することゝなつた。

オホバタケ 大島 江沼郡北濱に屬する部落。オホバタケ 大島 河北郡笠野郷に屬する部落。オホバタケ 大島 珠洲郡春日野の内の小字。

オホハタシヤ 大幡社 ↓カヌスギイズムヒメジンジャ 神杉伊豆牟比咩神社。オホハタマツリ 大幡祭 ↓カヌスギイズムヒメジンジャ 神杉伊豆牟比咩神社。オホハタヤマ 大畑山 鳳至郡奥呂見の北

オホバタンゲン 大庭探元 通稱探元。諱は久浮。字は德基。號は松溪。探柳の子で醫を業とし、初め十人扶持を受け、寛延二年新知百五十石に登り、寶曆四年正月十八日四十七歳を以て歿。探元刀圭の餘詩書を能くした。

オホバタンゲン 大庭探元 初め養元。諱は敏徳。醫を京の小森桃塙に習ひ、文化十四年父卓元の遺知百五十石の内百二十石を賜ひ、天保十一年五十石を増して百七十石を受けた。

オホバタンリユウ 大庭探柳 一に探流に作る。平安の人で、本道の醫を業とした。享保九年十月召されて新知百五十石を賜ひ、十二年歿。子探探元・順元・卓元 探元敏徳相繼いだ。

オホバボウス 大場坊主 梗の一種で、一名を吉平坊主ともいふ。河北郡大場の百姓吉平によつて發見せられた良種で、藩末から明治にかけて最も良く行はれた。吉平は文政四年の出生であつた。

オホバムネチカ 大場宗見 通稱又三郎。源太夫。父は村井長朝の臣大場采女。宗見前田利常に仕へて四百石を領し、大小將に列し、大銀奉行に任せられたが、元祿三年十二月大銀土蔵が賊の爲に侵されたので、宗見は人持組某に御預となり、四年七月知行を召放され、親類へ永御預の處分に附せられた。しかるに六年二月大工平丞がその窃盜であつたこと露顯し、宗見は知行を復せられ、八年四月歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

オホハラ 大原 鹿島郡久江原山分の内の小字。

座する。式内等社記に、『大原神社、水田丸村鎮座、稱大原大明神、今爲鹿島社。』とある。

オホハラチユウカン 大原忠官 忠官又は忠閑にも作る。諱は即家。系譜には即我としてある。初め柴田勝家に仕へ、慶長十九年に前田利常に召出されて三百石を受け、元和元年大坂夏陣に五月七日眞田丸附近にて負傷し、十六日歿。子孫世々藩に仕へた。

オホヒ 大樋 河北郡小坂庄に屬する部落。郷村名義抄に、此の村の東に昔年大樋があつたから大樋新村といふたが、その後新字が除かれたものであるとある。後町建となつた爲文政四年二月地子町裁許に屬せしめて、大樋町と私稱した。故に藩制の時は無高の村であつた。淺野屋秋霖の詩の引に、『秋日與青陵先生巖尹明。同散步至大南町。俄遇風雨。憩野店云々。』とあり、海保青陵撰の富永權藏墓誌銘に、『與君善者皆送於府北郊外大南。』とある。大南は斥原から取つたので、オホヒ即ち大樋である。

オホヒカンベエ 大樋勘兵衛 陶工大樋氏第三代を勘兵衛といふ。前田重熙から治脩までの間に亘り、享和二年三月廿六日歿した。四代勘兵衛は、天明五年七月金谷御殿に於いて製陶の技を前田治脩の覽に供し、文政六年陶製獅子を前田齊泰に上り、翌年隱居して土庵と稱し、天保十年十月廿七日歿した。又五代勘兵衛は名工と稱せられ、文政七年十月家を襲ぎ、八年三月二人扶持を受け、十一年正月藩から河北郡山上村清水に製陶地を貸與せられ、弘化四年三月歩組列の待遇を受け、